30th ファン感謝企画

Boat Beat Press バックナンバーを振り返る！ 第6弾

編集部PICKUP！

過去のボートビートプレスに有名ボートレース漫画「モンキーターン」とのタイアップ企画がありました。実際に漫画を読んでボートレーサーになろうと決心した選手も数多くいらっしゃいます。今回はそんな「モンキーターン」についてフォーカスしてみます！

▼BBP81号の特集より抜粋

漫画「モンキーターン」

週刊少年漫画雑誌『週刊少年サンデー』（小学館）にて、1996年から2005年まで連載。累計発行部数は1000万部以上を突破している。当作品は日本財団と一般社団法人マンガナイトが人生の学びにつながるマンガを選出したプロジェクト（※）においても注目され、実際に本作を読んだことがきっかけで選手になった人も多いと言われているバイブル的な漫画シリーズ。
「ボートレース平和島」では2005年11月から2007年3月までレース場のメインビジュアルにアニメキャラクターを採用。選手募集のポスターにも起用されました。

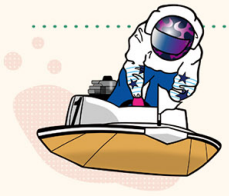
競技ルールや支部・場については現実に忠実に描かれており、登場キャラクターは実在するレーサーを参考にしているものの（主人公の波多野憲二のモデルは東京支部70期・3590の濱野谷憲吾選手）、すべて架空の人物です。ただし現実のエピソードが引き合いに出されることもあり、実在の選手について語るシーンもあります。
なお、この漫画が連載されていた当時は「競艇」から「ボートレース」への名称変更前であるため、一貫して「競艇」という言葉が使用されていました。その後、ルール変更により、当作品で話の展開の鍵を握っていた「持ちペラ制度」も2012年を以て廃止されているなど現在とはルールが色々異なっています。

（※）日本財団と一般社団法人マンガナイト（東京都文京区、代表 山内康裕）は「これも学習マンガだ！～世界発見プロジェクト～」の一環としてスポーツの面白さやアスリートの魅力、普段知る機会の少ない競技を伝えることを目的に「2021年夏スポーツを100倍楽しむマンガ100作品」を選書。人生の選択肢を増やし豊かにしてくれるスポーツ漫画『モンキーターン』はボートレースのドラマ性と、ルールや用語も自然と理解できる名作だと日本財団ジャーナルのコラムでも紹介されている。

作品概要

少しそそっかしいが、負けん気が強く度胸のある主人公・波多野憲二は幼いころからの夢だったプロ野球選手になることを断念し、ボートレーサーになることを目指す。
きっかけは担任教師、野球に代わる活躍の場としてボートレースを勧めたのだった。
心機一転ボートレーサーを目指し、憲二は本栖研修所の試験を受け無事に合格する。
研修所時代からレーサーになるまでと、プロレーサーになってからの試練・友情や恋愛などの人間関係といった壁にぶつかりながらも、大きく成長していく青春スポーツ漫画。

【参照】小学館　少年サンデーコミックス　河合克敏著　「モンキーターン」　シリーズ



モンキーターンとは？

初めてレースを観戦した方は、ターンマークを旋回するレーサーの迫力あるターンに引き込まれた方も多いのではないでしょうか？
一般的によく見られる“中腰で立ち上がった姿勢”で旋回するのが、「モンキー」と言われるターンです。旋回半径を小さくし、より鋭く速いターンを追及していった結果、生まれたのがモンキーという旋回術なのです。

なぜ「モンキーターン」と名付けられたのか？

このターンを初めてレース時に実践したのは **飯田（いいだ） 加一（かいち） 選手** だと言われています。

モンキーターンとは、ボートの上に立ちあがり、右足の荷重によりサイドをかけながらターンをする旋回術。90年代は最先端の旋回術だったが、現在では多くのレーサーが修得している基本テクニックとなっています。

【参照引用】BOATRACEオフィシャルHP
ボートレースを知る楽しむ>BOAT RACE GUIDE>Level2.実践編>モンキーターン

当時はボートにカウリングを装着することがなかったため、立ち上がる姿勢で全身が露出するターンは危険極まりなく、関係者からはなかなか容認はされなかったそう。それでも飯田選手がコースレコードをいくつか更新し始めると、多くのレーサーが〝必勝ターン〟として、このターンを練習し始めるように。

ボートレーサー養成所（公式HPより）

【参照引用】BOATRACEオフィシャルHP　ボートレースを知る楽しむ>BOAT RACE GUIDE>用語辞典

その後、モンキーターンは選手それぞれで独自にアレンジされ、さまざまなタイプが生まれて個性がでるようになりました。
1993年の総理大臣杯では植木通彦選手がモンキーターンを駆使した選手として初めてSGを獲得。以降、モンキーターン全盛時代に突入しました。（植木選手がモンキーターンをはじめた当時は、まだバイオレンスモンキー・フロンティアターンなどと呼ばれていた）

現在では、ボートレーサー養成所の実践カリキュラム（※）にも組み込まれるほど、ボートレースにおける標準的な旋回方法になっています。有名漫画のタイトルにもなり、ボートレースといえば「モンキーターン」というイメージが定着しました。

（※）養成場入学者はボートやモーターの基礎知識やボートレースのしくみなどを学ぶとともに、整備・操縦等の基礎訓練、4～7か月目に応用訓練、スタート練習、整備調整、試験を経て、8か月目～修了にむけて実践的な訓練に入る。「モンキーターン」は実践訓練での指導内容に入っており、訓練では模擬レースなども行う。

【参照引用】BOAT RACE オフィシャルウェブサイト、ボートレーサー養成所HP